

【NEWS RELEASE】

2018年11月14日

各 位

株式会社三井住友銀行

日本板硝子株式会社に対する「ESG/SDGs評価」に基づく
初のコミットメントライン・シンジケーションを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、日本板硝子株式会社（代表執行役社長兼 CEO：森 重樹）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーションを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役：瀧崎 正弘）と弊行が作成した基準に基づき、日本板硝子株式会社のESG（1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（2）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるコミットメントライン・シンジケーションとなります。

今回対象となりました日本板硝子株式会社の取組は、環境側面（E）、社会側面（S）およびガバナンス側面（G）の各項目について非常に高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、大変優れた取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGs達成への高い貢献意欲をお持ちであることから、最上位評価の取得となりました。

特に、ESG及びSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

- E：自社の事業活動に伴う主な環境負荷を、グループ会社も含めて把握。加えて、製品のライフサイクルを通じて環境負荷削減に貢献するVA（Value Added）製品の販売を拡大する方針を打ち出し、持続可能な社会の実現に貢献していること。
- S：グループ全社で詳細な安全実績のレビューを実施し、重大災害度数率が減少。また、従業員の働き方改革を推進すると共に、サプライチェーン全体でCSRを推進するため「NSGグループサプライヤー行動規範」を制定していること。
- G：全社横断組織として「サステナビリティ委員会」を設置し、取組を全社的に推進していること。また、統合報告書や「NSG Group サステナビリティポリシー」を開示し、組織としての取組方針を明確化していること。
- SDGs：サステナビリティ委員会において、SDGs達成に向けた自社の貢献のあり方について議論するとともに、株主・投資家向け説明会で、SDGsを含むサステナビリティに関する取組を説明していること。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs評価シンジケーション」およびFTSE RussellのESG評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ご参考>

1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。